

令和 8 年度入学者選抜学力検査問題

国 語

注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 検査時間は、9時25分から10時15分までの50分間です。
- 3 大きな問題は全部で5問で、表紙を除いて9ページです。
また、別に解答用紙が(1)、(2)の2枚あります。
- 4 監督者の「始め」の合図があったら、すぐに受検番号をこの表紙と解答用紙(1)、(2)のきめられた欄に書きなさい。
- 5 答えは、必ず解答用紙のきめられた欄にはっきりと書きなさい。
また、特に指示のあるもののほかは、各問いのア、イ、ウ、エのうちから最も適当なものをそれぞれ一つ選んで、その記号を書きなさい。
- 6 答えの字数が指示されている問いについては、句読点や「 」などの符号も字数に数えるものとします。
- 7 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、筆記用具をおきなさい。

受 検 番 号

番

1

次の1、2の問いに答えなさい。

1 次の〱線の部分の読みをひらがなで書きなさい。

- (1) 来賓の臨席を賜る。
- (2) 朗らかな表情を浮かべる。
- (3) 憶測に基づく見解。
- (4) 帽子で日差しを遮る。
- (5) 鋭敏な感覚を持つ。

2 次の〱線の部分を漢字で書きなさい。

- (1) 行事を成功にミチビク。
- (2) 毛糸で手袋をアむ。
- (3) 計画のサンピを問う。
- (4) エウピンで手紙を送る。
- (5) 紅茶にサトウを入れる。

2

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。

美術館などのミュージアムにはかつて、わたしたちの日常からは離れた「殿堂」というイメージが伴っていたかもしれない。あるいは現在でもそのようなイメージを抱いているという人も少なからずいるだろう。ただ、日常から離れたその手の特別感は、近年では批判にさらされやすい。

哲学者のピーター・チエイニは、美術館にはさまざまなルールがあり、それが、「人びとのあいだの相互のやり取りを縮減して、^(注2) 恭しい静けさを促進してしまう」と述べている。こうして生み出されるのが、どこかよそよそしい「距離のエトス」^(注3)である。これに対してチエイニが推すのは、美術館に恭しく飾られている立派な芸術作

品を鑑賞することとは別の、もっとありふれたモノや活動にも価値を見いだす「日常の美学」である。ここでいう「日常の美学」は、特別なものとしての芸術作品を鑑賞するときのような、過度の完璧さを求めない。そこでは距離や排除ではなく、もっとゆるやかな、「包摂のエトス」や「帰属のエトス」が育まれるとチエイニは説くのである。このようなチエイニの議論を踏まえて言うならば、美術館のなかでの積極的な会話は、日常から断絶した場であることを理想としてきた美術館を、日常と地続きの場として、いわばつなぎ直す機能を果たすのだと考えてもよいかもしれない。

声と会話が、美術館の展示室にありふれた日常を持ち込むのだ。いずれにせよわたしたちは、相応の理由があつて作品の前で語り、相応の理由があつて作品の前で沈黙する。誰かと一緒に作品を取り囲み、意見や感想の交換をしながら作品理解を深めていくケースがある一方で、他方では、他者の声をシャットアウトして、誰からも邪魔をされずに作品そのものと対峙する^(注4)というケースもある。そして、なんとも居心地が悪いことに、この二つのケースが現実の展示室のなかでしばしば対立してしまうのである。

ミュージアム、特に美術館という館種のミュージアムにおいて、「声」や「音」が争点になってしまふのはなぜか。この問いに対する最も簡単な答え方は、ミュージアムが公共の場として成立しているからこそ「声」や「音」が争点化されるのだ、というものであるだろう。

美術館を含むミュージアムの歴史は、あえて単純化して述べるならば、当初は一般に公開されていなかった個人のコレクションが、

次第に、公衆に向けて開かれていくという流れを伴っている。西洋の場合であれば、中世の王侯や教会のコレクションも、一六世紀以降に王や貴族や知識人たちが築いた収集室も、ひろく一般に向けて公開されるという性質のものではなかった。それが一八世紀以降、次第に開かれていくときに、近代的な意味でのミュージアムが誕生してくるのである。

しかしここに葛藤が生じる。コレクション、わけでも芸術作品のコレクションをみるという出来事は、私的な感性の領域に、根深く関わるものであることは疑いえない。にもかかわらず、近代以降に成立する美術館という制度は、私的な側面を多分にもつこの出来事を、公的にひらくことをよしとする。ここにあるのはしたがって、作品鑑賞を公的な舞台上に上げようとする美術館の根本にある理想が、いわば内在的に含み持つている葛藤である。

たとえば、ある美術作品を所有している個人が、それを親しい友人たちに披露しているとする。そして鑑賞の場が、所有者の書斎や応接室だったとする。この場合、所有者が作品にべたべたと手を触れようが、大声で講釈を垂れようが、これを非難することは難しい。大声での講釈にうんざりする人はいるかもしれないが、「お静かに！」などと命じてやめさせることは、現実的には無理だろう。ここで重要であるのは、作品所有者のこうしたふるまいの是非ではない。肝心であるのは、一八世紀から一九世紀にかけてミュージアムという近代的な装置が登場してくる以前には、このような私的な鑑賞の方がむしろ普通だったという点である。^② 絵の前は、必ずしも、公共的な空間なのではない。むしろは、絵の前で成立する公共

性は、いつの時代においても常に、わたしたちが現代的な意味で思い浮かべる公共性と同じだったわけではない、と言ってもよいかもしれない。

、近代以降の美術館という制度のもとでは、どうだろうか。美術館等のミュージアムは、コレクションを、私的な所有物としてではなく、共有の財として分けもつことを前提とする近代的なシステムである。鑑賞を、私的な感性の領域での出来事から、あるいは仲間内の交流の場で完結する出来事から、公共の場で生じる出来事へと拡張しようとするのが、美術館である。つまるところ美術館は、無数の鑑賞者が抱えている無数の私的欲求を、ほどよく叶え、ほどよく抑えて、公共的な空間をつくり出すという課題を宿命的に負っている。

作品の前での会話が、わけでも美術館の展示室で問題となるのは、まさしくこうした文脈においてである。美術館には、多様な来館者が多様な欲求を抱いてやって来る。語りたいたい人もいれば、語りたくない人もいる。あるいは、語りたいたいときもあれば、語りたくないときもある。これらの私的な欲求を適宜汲み取り、適宜切り捨てて、^③ 妥当な落としどころを探すことが不可欠である。

いまむらのふたか
(今村信隆『お静かに！』の文化史——ミュージアムの声と沈黙をめぐって「から」)

(注1) ミュージアム＝博物館や美術館のこと。

(注2) 恭しい＝丁寧なこと。

(注3) エトス＝ある集団に共有される道徳的な社会意識。

(注4) 対峙する＝直面する。

1 [] に入る語として最も適当なものはどれか。

ア だから イ なぜなら ウ では エ つまり

2 ピーター・チエイニの意見と筆者の解釈について、ある生徒が

次のようにまとめた。 [] X、 [] Y、 [] Z に入る

る言葉の組み合わせはどれか。

○ピーター・チエイニの意見

・ありふれたモノや活動にも価値を見いだす。

Ⅱ「日常の美学」

← 「包摂のエトス」や「帰属のエトス」を育む。

○筆者の解釈

美術館は、さまざまな [] X があるために、日常と [] Y であるが、声と会話により、日常と [] Z になりうる。

ア	X	イメージ	Y	断絶した場	Z	地続きの場
イ	X	イメージ	Y	地続きの場	Z	断絶した場
ウ	X	ルール	Y	断絶した場	Z	地続きの場
エ	X	ルール	Y	地続きの場	Z	断絶した場

3 美術館の根本にある理想が、いわば内在的に含み持つている葛藤とあるが、このような葛藤が生じるのはなぜか。六十字以内で書きなさい。

4 絵の前は、必ずしも、公共的な空間なのではない とあるが、⁽²⁾ ということか。四十五字以内で書きなさい。

5 妥当な落としどころ⁽³⁾ とあるが、筆者の考える「妥当な落としどころ」として最も適当なものはどれか。

ア 多くの鑑賞者の欲求が鑑賞の場から隔絶されている状態。

イ 多くの鑑賞者の無数の欲求が完全に満たされている状態。

ウ 多くの鑑賞者の欲求が公共性よりも重視されている状態。

エ 多くの鑑賞者の様々な欲求が適度に実現されている状態。

6 本文における筆者の考えとして最も適当なものはどれか。

ア ミュージアムの特別感をつつては「殿堂」と表現したが、今日ではそのイメージは失われている。

イ 近代以降の美術館は、王侯貴族や知識人たちの収集物を共有の財と見なすことを前提としている。

ウ ミュージアムという近代的な装置には、芸術を価値付ける基準の多様化による争いがつきまとう。

エ 作品への理解を深めるには、沈黙して作品と向き合うことよりも他者との語り合いが必要である。

次の文章を読んで、1から5までの問いに答えなさい。

「私(ワカ)は、京都の有名和菓子店「洛中甘匠庵」で和菓子職人の見習いとして働きはじめた。その後、高齢の「大将」の後継者となり、初めて全工程を一人で手がけたのが「雲珠桜」という菓子であった。

体調を崩した大将に代わって「神田さん」と店を切り盛りする「私」は、大将の妻である「おかみさん」から三人一組で出場する和菓子品評会の出場案内を受け取った。

大将と私のフォローを神田さんにもうもらう。それが一番いい布陣か。いくら気を揉んだところで、まずは一次選考を通過しなければお話にならない。だが一次選考に、未熟な私が最も自信のある菓子を出すわけにもいかない。定時で女性たちが帰ると、私は神田さんと明日の準備に取りかかる。しばらくすると店の前で車の停車音がした。健太郎(注1)さんが、おかみさんと帰ってきたのだ。二人が作業場に姿を見せると、私と神田さんは「お疲れさまです。」と頭を下げる。

「ワカ、あの案内の紙やけど、見てくれはりましたか。」

「ええ、拝見しました。」

「どう思われます。」

⁽¹⁾「どうって、出場してみたいですけど。」

「けど、って?。」

「もし入賞できなかったら、洛中甘匠庵の看板を汚すことになりませんか。そもそも一次選考を通過する自信さえ、正直……。」

「汚すって、なんですか?」

「大将とおかみさんが長年築いてきた名誉とか信頼とか、なんかそういうもんを。」

おかみさんと私のあいだの長い沈黙が、冷やさね固められ、沈んでいくのを感じた。

「……そう思うんやったら、やめときよし。それこそ大将にも私にも失礼やさかい。ワカの腕が未熟なことくらい、私、よう知ってます。挑戦しいひんかったら名が汚れることもあらしません。(注3)せやけど、へっぴり腰で挑戦もししいひん後継者を選んでしまうたあつては、大将と私のプライドが汚れます。」

おかみさんの眉が吊り上がるのを初めて見た。私は全身が氷のようになつてしまつて言葉が出せない。作業場に気まずい空気が張りつめる。だが誰もそれを修復できず、おかみさんはくると背を向けると足早に出ていった。

「おかみさんは賞をとって欲しいなんて、思つてはらへんのですよ。」

神田さんは言う、私の左肩にそつと手のひらを置いた。

「出場する以上、賞を狙うのは普通じゃないですか。」

神田さんの手を払う。

「ワカのお気持ちもわかります。でも看板を汚すやなんて、そんなこと言うたらあきませんよ。私たちのワカは、もうこの店のリー

ダーなんです。このメンバーで力を合わせて暴れて欲しい。ただそれだけなんやと思いますよ、おかみさんは。」

(2) そう言った神田さんの言葉に、なにも返せない。私は神田さんと健太郎さんに「明日は、ゆつくり休んで下さい。」とだけ言って、作業場をあとにした。

帰りの地下鉄 烏丸線からずまの車内。紙粘土を左手に握る。餡玉あんを切つて包餡する。それを何度も繰り返す。母親にも、あそこまでの勢いで突き放されたことはなかったかもしれない。包餡した紙粘土を、小指の背で梅の形にする。次に中指の第二関節よこを尖らせ、中央に小さなくぼみを入れて完成させた。

「おにいちゃん、おままごと？」

我に返った。いつのまにか隣に座っていた幼い女の子が、

言葉で話しかけてきた。

「うん、そうやで。お兄ちゃんなあ、おままごとしてんねん。」

「もういつかい、やってやってえ。」

「いいよ。」

私はリュックサックから三角ペラを取り出し、今度は桜花を作つてみせた。

「マーマー、みてみてえ。さくらのおはな。」

「もうやめときなさい。すみません、ご迷惑をおかけしまして。」

「いいんですよ。じゃあ、もうひとつだけやってみよか。」

次は紅葉の形にした。

「凄っ！」

飛び出しそうな目をして驚いたのは、母親のほうだった。私は丸めていた背筋を伸ばす。吊革つりかむを握る学生風のカップルと四人の外国人が、柔らかな視線を私の手もとに落としていた。

——私には見えていないだけで、待つてくれている人が、いるのかもしれない。

休みが明けると私は作業場に、おかみさん、神田さん、久美子、

新田さん、それに健太郎さんと呼んだ。

(3) 「二次選考は、雲珠桜で挑みます。」

大将が認めてくれた菓子。大将が名づけてくれた菓子。これで落ちたとしても悔いはない。だが、落ちたくはない。落ちるわけがない。絶対に。 (高田充「今日も私は、ひとつの菓子を」から)

(注1) 健太郎さん⇨洛中甘匠庵で働く店員。後出の久美子、新田さん

も同じ。

(注2) やめときよし⇨やめておきなさい。

(注3) あらしません⇨ありません。

1 に入る語として最も適当なものはどれか。

ア たどたどしい

イ すがすがしい

ウ かいがいしい

エ とげとげしい

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。(……の左側は現代語訳である。)

ある夜、野分はしたなう吹いて、紅葉みな吹き散らし、落葉頗

(暴風が激しく)

(注1)

る狼藉なり。殿守のとものみやづこ朝清めすとて、是をことごとく

(乱雑)

(朝の掃除)

掃き捨ててんげり。残れる枝、散れる木の葉をかき集めて、

(てしまった)

(注2)

風すさまじかりけるあしたなれば、縫殿の陣にて、酒温めてたべけ

(冷たかった朝)

(注3)

る新にこそしてんげれ。奉行の蔵人、行幸より先にと急ぎゆいて

(てしまった)

(担当)

(天皇のおでまし)

(行つて)

見るに跡形なし。①「いかに。」と問へば、しかしかと言ふ。蔵人大き

(1)

(注4)

(おほ)

に驚き、「あなあさまし、君のさしも執し思し召されつる紅葉を、

(あは大変だ)

(天皇があれほど執着しなかつた)

かやうにしけるあさましさを。知らず、なんぢ等、ただ今禁獄・

(あきれたことよ)

(注4)

流罪にも及び、我が身もいかなる逆鱗にかあづからんずらん。」と嘆

るところに、

(天皇の怒りを受けることだろ)

主上いとどしく夜の御殿を出でさせ給ひもあへず、か

(天皇がいつもより早くご寝室をおいでになるやいなや)

しこへ行幸なつて紅葉を覧なるに、なかりければ、②「いかに。」と

(ご覧になる)

御たづねあるに、蔵人奏すべき方はなし。ありのままに奏聞す。

(他に申し上げようもない)

(注2)

天気ことに御心よげにうち笑ませ給ひて、林間煖酒焼紅葉といふ

(天皇のご機嫌)

(注2)

詩の心をば、それらには誰が教へけるぞや。やさしうも仕りける

(漢詩)

(注3)

ものかな。」とて、かへつて叡感にあづかつしうへは、あへて

(漢詩)

(風流にいたしたものだ)

勅勤なかりけり。

(天皇のおとがめ)

(天皇のお褒めにあずかつた)

(注2)

(注3)

(注4)

(注5)

(注6)

(注7)

(注8)

(注9)

(注10)

(注11)

(注12)

(注13)

(注14)

(注15)

(注16)

(注17)

(注18)

(注19)

(注20)

(注21)

(注22)

(注23)

(注24)

(注25)

(注26)

(注27)

(注28)

- (注1) 殿守のとものみやづこ＝掃除を担当する役人。
- (注2) 縫殿の陣＝警護が控える場所。
- (注3) 蔵人＝天皇の側(そば)に仕える役人。
- (注4) 禁獄・流罪＝刑罰の名。
- 1 かやう は現代ではどう読むか。現代かなづかいを用いて、すべてひらがなで書きなさい。
- 2 ① いかに ② いかに ③ いかに ④ いかに ⑤ いかに ⑥ いかに ⑦ いかに ⑧ いかに ⑨ いかに ⑩ いかに ⑪ いかに ⑫ いかに ⑬ いかに ⑭ いかに ⑮ いかに ⑯ いかに ⑰ いかに ⑱ いかに ⑲ いかに ⑳ いかに ㉑ いかに ㉒ いかに ㉓ いかに ㉔ いかに ㉕ いかに ㉖ いかに ㉗ いかに ㉘ いかに ㉙ いかに ㉚ いかに ㉛ いかに ㉜ いかに ㉝ いかに ㉞ いかに ㉟ いかに ㊱ いかに ㊲ いかに ㊳ いかに ㊴ いかに ㊵ いかに ㊶ いかに ㊷ いかに ㊸ いかに ㊹ いかに ㊺ いかに ㊻ いかに ㊼ いかに ㊽ いかに ㊾ いかに ㊿
- 3 ① 跡形なし ② とあるが、何がどのようになっていたのか。十五字以内の現代語で答えなさい。
- 4 林間煖酒焼紅葉 が「林間に酒を煖めて紅葉を焼く」という読み方になる返り点の付け方として最も適当なものとはどれか。

ア 林間煖酒焼紅葉
 イ 林間煖酒焼紅葉
 ウ 林間煖酒焼紅葉
 エ 林間煖酒焼紅葉

5 やさしうも仕りけるものかな とあるが、天皇はどのようなことを風流だと考えているのか。

ア 悪天候の翌朝に庭の手入れをすること。

イ 天皇のために熱い酒の用意をすること。

ウ 漢詩の内容のとおりに行動をすること。

エ 天皇の訪問前に紅葉の下見をすること。

6 本文の内容と合うものはどれか。

ア 天皇は殿守のとものみやぶこの行動を戒めることで、規則を守ることの大切さに気付かせた。

イ 天皇は自身の知識と照らし合わせることで、殿守のとものみやぶこの行動を肯定的に捉えた。

ウ 天皇は自分の強い信念を貫き通すことで、殿守のとものみやぶこからのさらなる信頼を得た。

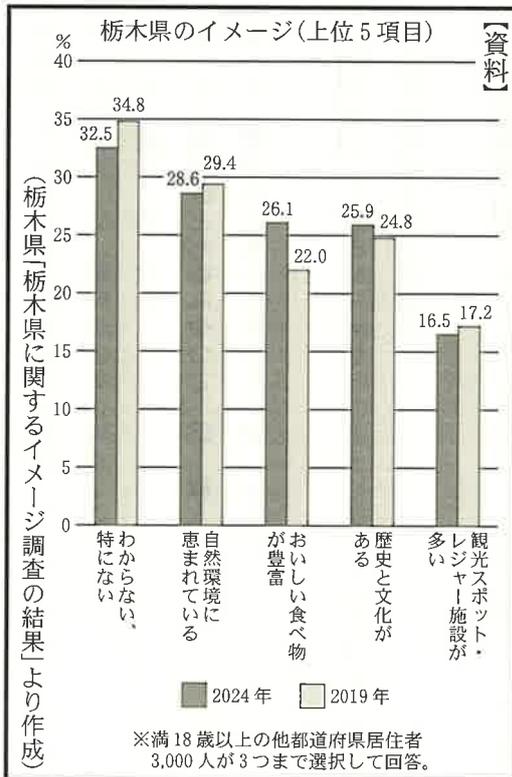
エ 天皇は報告する重要性を蔵人に説明することで、ありのままに打ち明ける利点を理解させた。

5 次の1、2の問いに答えなさい。

1 次の会話文は、「地域の魅力を伝えよう」というテーマで調べ学習を行っているグループの会話の一部である。これを読んで、(1)から(5)までの問いに答えなさい。

生徒A 「栃木県のホームページでこんな【資料】を見つけたよ。栃木県外に居住している人から見た栃木県に関するイメージ調査の結果だつて。」

生徒B 「おもしろい資料だね。他の都道府県の人から見た栃木県への意見は参考になりそう。」



生徒A 「県外の人にも栃木県の良いイメージを知ってもらえているのはうれしいね。」

生徒C 「でも、一番多い回答が、『わからない、特にない』という結果は残念だな。もっと栃木県の良さをPRする必要があるんじゃないかな。」

生徒A 「それなら、栃木県の良さを全国にPRするにはどうしたらいいか、地域の人たちにインタビューしてみたらどうかかな。栃木県の魅力を効果的に伝えるための方法を聞いて、一緒に考えてみようよ。」

生徒B 「いいアイデアだね。でも、インタビューの時間は限

られているから、質問の内容や聞き方をしっかり考え
ないといけないよ。」

生徒C 「そうだよね。インタビューの目的や意図はわかりやす
く伝えよう。他に注意することはあるかな。」

生徒B 「自由な視点から回答できるような聞き方をして、多様
な意見が出るようにしてみたらどうかかな。」

生徒A 「』と注意するような聞き方をすれば、色々な答
えが出そうだね。」

生徒C 「そうだね。このやり方で進めてみよう。」

(1) おもしろい と品詞が同じものはどれか。

ア 明るい イ きれいだ ウ 読む エ 大きな

(2) 聞いて を敬語表現に改めたものとして最も適当なものはど

れか。

ア いただいて イ おっしゃって

ウ お召しになって エ 伺って

(3) 注意 と熟語の構成が同じものはどれか。

ア 寒冷 イ 洗車 ウ 長文 エ 濃淡

(4) 会話文中の に入る内容として最も適当なものはど
れか。

ア あなたの暮らす地域が全国に誇れる自然環境は何ですか。

イ 調査結果の項目であなたの考えに近いものはどれですか。

ウ 二〇一九年と二〇二四年の調査結果に違いはありますか。

エ 栃木県の魅力のPRに有効なのはどのような活動ですか。

(5) このやり方で進めてみよう とあるが、会話の内容を踏まえ
ると、どのようなインタビューを行ったと考えられるか。

ア テンポよく質問をして、相手の考えをすぐ評価した。

イ 個人の意見を尊重するために、一人ずつ話を聞いた。

ウ 相手に調査目的や意図を伝え、幅広い回答を求めた。

エ 相手の答えに耳を傾けて、意図や背景を掘り下げた。

2 図書委員会では、読書活動を推進するために、おすすめの本の

紹介を計画している。あなたは、「A 様々な分野・テーマの本
を紹介すること」と「B 特定の分野・テーマの本を紹介するこ
と」のどちらの方法を選ぶか。あなたの考えを国語解答用紙(2)に
二百字以上二百四十文字以内で書きなさい。

なお、次の《条件》に従って書くこと。

《条件》

(i) AとBのどちらかの方法を選ぶこと。

(ii) 選んだ理由を明確にすること。

(問題は以上です。)

令和 8 年度 問題 の 解説

国語科 (全日制)

1 出題の方針

(1)	中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校国語科の指導内容に即し、国語で正確に理解し、適切に表現する言語能力を総合的に評価できるようにした。
(2)	生徒の学力の実態に応じ、言語についての知識とその理解の程度を評価できるようにした。
(3)	生徒の学習や社会生活に関連があり、内容に偏りのない平易な文章を読んで、表現者の考え方を捉え、あるいは作品の描写や登場人物の心情を読み取るなどして、その内容をまとめて表現する力を評価できるようにした。
(4)	古典は、親しみやすい内容の作品を素材にして、我が国の言語文化に関する知識や作品の世界を広く理解する力を評価できるようにした。
(5)	作文は、自分の考えを条件に従って適切に書く力を評価できるようにした。

2 出題の意図等

		出題意図	内容・素材	配点	形式	備考			
1	1	基本的な漢字の力をみる。	漢字の読みと書きに関する事項についての知識及び技能を評価する。	短文中の漢字の読み	2 × 5	10	漢字の読みと書きに関する事項 20点		
	2	基本的な漢字の力をみる。		短文中の漢字の書き	2 × 5	10			
2	1	文脈に即して本文の内容を理解する力をみる。	説明的な文章の構成や展開を捉え、内容を理解し、表現する力を評価する。	接続詞の空欄補充	2 × 1	2	説明的な文章 今村信隆 「『お静かに！』の文化史—ミュージアムの声と沈黙をめぐって」 22点		
	2	文脈に即して本文の内容を理解する力をみる。		文章のまとめの空欄補充	3 × 1	3			
	3	文脈に即して本文の内容を理解し、表現する力をみる。		近代以降の美術館という制度に「葛藤」が生じる理由説明	6 × 1	6			
	4	文脈に即して本文の内容を理解し、表現する力をみる。		近代以前の絵の鑑賞の在り方に関する内容説明	4 × 1	4			
	5	文脈に即して本文の内容を理解する力をみる。		「妥当な落としどころ」の内容理解	3 × 1	3			
	6	文脈に即して本文の内容を理解する力をみる。		文章の内容の理解	4 × 1	4			
3	1	文脈に即して登場人物の様子を読み取る力をみる。	文学的な文章の表現の特徴を捉え、登場人物の心情や言動の意味を理解し、表現する力を評価する。	登場人物の様子の理解	3 × 1	3	文学的な文章 高田充 「今日も私は、ひとつの菓子を」 22点		
	2	文脈に即して登場人物の心情を読み取り、表現する力をみる。		登場人物の心情の説明	7 × 1	7			
	3	文脈に即して登場人物の心情を読み取る力をみる。		登場人物の心情の理解	4 × 1	4			
	4	文脈に即して登場人物の心情の変化を読み取り、表現する力をみる。		会話文の空欄補充	4 × 1	4			
	5	文脈に即して表現上の特徴を理解する力をみる。		表現上の特徴の理解	4 × 1	4			
4	1	時代による言葉の違いを理解する力をみる。	親しみやすい古典を読み、内容を理解し、表現する力と、伝統的な言語文化に関する知識を評価する。	歴史的仮名遣いの読み方	2 × 1	2	古文 「平家物語」 14点		
	2	時代による言葉の違いを理解する力をみる。		発言の主体の理解	2 × 1	2			
	3	時代による言葉の違いを理解し、表現する力をみる。		「跡形なし」の内容説明	3 × 1	3			
	4	伝統的な言語文化に関する知識をみる。		返り点の理解	2 × 1	2			
	5	古典に表れたものの方や考え方を理解する力をみる。		「やさしうも仕りけるものかな」の内容理解	2 × 1	2			
	6	古典に表れたものの方や考え方を理解する力をみる。		本文全体の内容の理解	3 × 1	3			
5	1 (1)	言葉の特徴や使い方に関する知識をみる。	言葉の特徴や使い方に関する事項、情報の扱い方に関する事項、言語を運用する能力を評価する。	品詞	2 × 1	2	言葉の特徴や使い方に関する事項、情報の扱い方に関する事項及び作文 22点		
	1 (2)	言葉の特徴や使い方に関する知識をみる。		敬語	2 × 1	2			
	1 (3)	言葉の特徴や使い方に関する知識をみる。		熟語の構成	2 × 1	2			
	1 (4)	会話文と図表を結び付け、内容を解釈する力をみる。		会話文の空欄補充	2 × 1	2			
	1 (5)	会話の展開を捉える力をみる。		会話の展開の理解	2 × 1	2			
	2	作文の総合的な力をみる。		自分の考えを、条件に従って適切に書く力を評価する。	おすすめの本を紹介する方法について			12	論述

